

全国養護教諭
連絡協議会

会報

NO.60

平成22年3月 発行
全国養護教諭連絡協議会
代表者 水戸 俊子
東京都港区芝公園 2-6-8
日本女子会館 5階
TEL.:03(3433)5767
FAX.:03(3433)5768

全国養護教諭連絡協議会ホームページアドレス <http://www.yougo.jp>

相互の連携を密に

全国養護教諭連絡協議会

副会長 堀田 美枝子



会員の皆様には、常日頃から本会発展のために、深いご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

去る2月26日にメルパルクホールにて開催いたしました研究協議会も、平成7年度第1回から回を重ね、今年は15回目を迎えることができました。大勢の皆様のご参加をいただきまして、盛会に開催できましたことに深く感謝申し上げます。

さて、今年度(平成21年度)は、私たちにもっとも関係の深い学校保健安全法の施行元年の年でした。半世紀ぶりの大幅な改正は学校保健と学校安全の両分野を規定し、それぞれの充実を図るための法律となりました。特に学校保健では、養護教諭を中心として関係教職員等と連携した組織的な保健指導の充実、地域の医療機関等との連携による児童生徒の保健管理の充実、学校の環境衛生水準を確保するための全国的な基準の法制化等の規定が整備されたところです。各教育委員会等のご指導をいただきながら、今回の法改正が各学校でさまざまな実践として反映されたことと思います。

そうした折り、新型インフルエンザ対応で全国どの校種におきましても大変なご苦勞をされ、多くの時間と人力を費やされたのではないのでしょうか。特に高等学校においては、余儀なく臨時休業措置等を取り、初めて学級閉鎖・学年閉鎖を経験した学校もあったことでしょう。

近年の結核の再燃・大学生を中心に感染拡大した麻しん・宿泊行事で瞬く間に感染拡大した感染性胃腸炎などの対応や前年度から新型インフルエンザ対応について研修する機会も多くあったと思います。今年度は全国の養護教諭全員がそれら感染症に対する危機管理について、自校のこととして実感し、養護教諭の活動と密接に関連させて、学校内の組織体制の充実はもとより、学校医・地元保健所・教育委員会・保護者との連携の必要性を強く感じた感染症対応でした。

まさに「ピンチはチャンス」ということばの通り、今年度の新型インフルエンザ対応は、学校保健の領域である保健教育・保健管理・組織活動について改めて見直す絶好の機会となったといえます。健康観察を実施し、記録をとることの徹底が図られたり、保健指導の機会が増えたり、学校医・医療機関・保健所・教育委員会・保護者との連携や協力などの対応から、学校保健安全法の改正で求められる「組織」と「連携」の重要性について全職員に周知を図ることができたのではないのでしょうか。

様々な健康課題の解決のために、タイミングを逸することなく的確な対応が図れるよう相互の連携を大切に、中核的役割を果たす養護教諭として研鑽を積んでいかなければと思います。本会におきましても、全国組織力を活かし、役員一同、力を合わせて頑張ってください。会員の皆様の一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

文部科学大臣表彰

祝

第59回全国学校保健研究大会 表彰式にて
(平成21年11月10日 於：広島市)

仁井田幸江先生(茨城県)、天野 康子先生(栃木県)、生方 恵子先生(群馬県)、堀田美枝子先生(埼玉県)
田村志喜子先生(新潟県)、永井 利枝先生(山梨県)、原 永子先生(岐阜県)、永田智恵子先生(静岡県)
川崎千佳子先生(滋賀県)、池田 伸子先生(京都府)、谷廣 俊子先生(広島県)、岸本万希子先生(徳島県)
保井 町子先生(香川県)、須藤 幸子先生(佐賀県)、上江州園枝先生(沖縄県) **受賞おめでとうございます!**